

編集後記

各地の梅雨明けの報せが聞こえ始めた今日この頃、読者の皆様におかれましては健やかにお過ごしのことと存じます。見上げれば、力強い入道雲が本格的な夏の到来を告げ、抜けるような夏の青空へと続く航跡雲がいつそう鮮やかに映える季節になろうとしています。『航空と文化』133号（夏季号）を無事にお届けできることを、編集部一同大変嬉しく思っております。

今号は、航空宇宙の「過去・現在・未来」を縦横に繋ぐ一冊となりました。

清水副会長の巻頭言にもありましたように、航空宇宙を取り巻く環境は、次世代モビリティや「ニュースペース」と呼ばれる宇宙ビジネスの台頭など、歴史的変革期にあります。その最先端の動向として、藤原勇二氏の「航空業界のデジタル化とAIの活用」では、目まぐるしく進化するテクノロジーが、いかにして業務の効率化や旅客体験の向上、航空貨物の安全性に寄与するかを紐解いていただきました。

一方で、航空の現在と過去をつなぐ話題も二つご用意しました。山田亮氏による「イカロス出版と航空雑誌の45年」は、『月刊エアライン』を中心に長きにわたり空の魅力を伝え続けてきた情熱

の軌跡とインターネット時代の新たな展開をご紹介いただきました。さらに「大阪飛行機研究所の空撮写真コレクション」では、再発見された貴重な史料の概要とその公開をめぐるあれこれをご紹介しました。最先端のAI技術と、大正・昭和初期の空撮写真が同じ一冊の中で響き合うのも、多様な航空文化を扱う本誌ならではの醍醐味です。

さて、「2026 青少年航空宇宙絵画国際コンテスト」では本年も多数の力作を応募いただきました。そこで選ばれた3クラスそれぞれ3作品ずつが参加する国際航空連盟（FAI）主催の「ヤングアーティストコンテスト」では14～17歳のクラスで世界1位・2位に輝く素晴らしい結果となりましたことをご報告できること嬉しく思います。子どもたちの作品群には、新しい才能や感性を目の当たりにするワクワク感と、大人が忘れがちな感動や発見の喜びが満ちています。

これから本格的な夏休みシーズンを迎えます。ご旅行や帰省等で機上の人となられる方も多いことでしょう。当協会でも「夏休み航空教室」等を通じ、未来を担う子どもたちと交流できることを楽しみにしております。夏のまぶしい空を見上げながら、あるいは涼しい室内でのひとときに、本誌のページをゆっくりとめくっていただければ幸いです。

厳しい暑さが続く折、皆様どうぞご自愛いただき、健やかな夏をお過ごしください。

『航空と文化』編集部



表紙の写真について

1935年頃の大阪市中央区備後町、安土町周辺の空撮写真で、大きな2棟のビルは堺筋野村ビルヂング（左）と第二野村ビルヂング（右。旧・白木屋大阪支店）です。本文21ページからの「大阪飛行機研究所の空撮写真コレクション 一再発見された日本の原風景」をご覧ください。

航空と文化 第133号 2026年夏季号（年2回発行） ISSN 0389-2484

2026年7月15日発行

編集人 荻田重賀 発行人 小田卓也

発行所 一般財団法人 日本航空協会

〒105-0004 東京都港区新橋1-18-1 TEL：03-3502-1206 FAX：03-3503-1375

E-mail：syupan@aero.or.jp URL：https://www.aero.or.jp/

定価 550円（税込） 定期購読料 2年（4冊）送料込2,200円（税込）

振替口座 00180-7-147798

制作・印刷所 株式会社スペース企画